



第1回「薬剤耐性(AMR)あるある川柳」 入賞作品発表

<http://amr.ncgm.go.jp/senryu/result.html>

国立国際医療研究センター病院 AMR臨床リファレンスセンター（厚生労働省委託事業）は、薬剤耐性(AMR)に関する正しい知識と抗菌薬・抗生物質の適切な使用方法やAMR対策について、国民の皆様方に理解を深め、考えていただく場の創出として「第1回薬剤耐性(AMR)あるある川柳」の公募を行い、初開催ながら、全国から合計3,129句のご応募を頂きました。

（公募期間：2017年11月1日～12月20日）

日々の暮らしの中で見られる風景が想像できる“あるあるな事柄”やAMR対策の正しい理解が端的に表現され、“つい口ずさんでしまう”リズム感の良い作品、また世相を反映したウイットな作品などが多く寄せられ、選に漏れた作品の中にもAMR問題をまっすぐに捉えたメッセージ力のある作品が多数ありました。

厳正なる審査の結果、金賞：1作品・銀賞：2作品・佳作：12作品の入選作品を決定しましたのでお知らせし、AMR情報サイト(<http://amr.ncgm.go.jp/senryu/result.html>)でも公開いたします。

 **金賞（1名）**

 **銀賞（2名）**



▼佳作作品は次頁

<本件に関する報道関係者からのお問合せ先>

AMR臨床リファレンスセンター広報事務局 担当：小石、佐藤、木下
TEL：03-6427-1627 FAX：03-6730-9713 E-Mail: info@kartz.co.jp

佳作（12名）

- ・『効果あるくすりを残そう 未来まで』（おくすりクソ野郎／20代／男性／岐阜県）
- ・『耐性菌 女房よりもすごいやつ』（おたやん／60代／男性／和歌山県）
- ・『抗菌剤 手あたりしだいに 飲む危険』（寒梅（カンバイ）／80代／男性／栃木県）
- ・『抗菌薬 未来につなぐ 宝物』（クリケット／50代／男性／熊本県）
- ・『抗菌薬 正しく使い バイバイ菌』（健康第一／40代／女性／神奈川県）
- ・『取り戻そう 耐性菌のない世界』（こぜっと／30代／女性／兵庫県）
- ・『人間を 忖度しない 耐性菌』（しーしー／40代／女性／千葉県）
- ・『怖いのは 耐性菌の 無知と無視』（とくさん／70代／男性／兵庫県）
- ・『耐性菌 つくらずつくる 良い未来』（ひな／20代／女性／栃木県）
- ・『抗菌薬 常備薬には いれないで』（ゆーあい／30代／男性／東京都）
- ・『抗菌薬 予防薬では ありません』（夢／70代／女性／奈良県）
- ・『細菌も どうやら菌トレ するらしい』（ヨッチャン／70代／男性／岩手県）

第1回「薬剤耐性(AMR)あるある川柳」入賞作品発表は2月20日(火)より下記URLでも公開いたします。
<http://amr.ncgm.go.jp/senryu/result.html>

※川柳、ペンネームは、すべて応募者の表記にしたがっているため、一部当て字等の表記で掲載しています。
※作品の著作権は、すべて国立国際医療研究センター病院 AMR臨床リファレンスセンターに帰属しています。
無断での転載、使用はご遠慮ください。
※入賞及び応募作品につきましては、当センターのWebサイト・SNS・報道資料等、広告広報活動の素材として使用することがございますのでご理解いたします。

【総評】 第1回「薬剤耐性(AMR)あるある川柳」の募集に、全国から3,129句という多数のご応募を頂きました。この場をお借りして深く御礼を申し上げます。

“薬剤耐性”という言葉はまだまだ聞きなれないものかもしれませんが、この問題について川柳を通じて考えていただけたことを大変うれしく思っています。応募作品には、“薬剤耐性”の正しい知識へ導く正直さがうかがえる作品、医師と患者さん・ご夫婦・ご家族など人の情景がうまく描写されている作品、AMR対策を推し進めていくという強いメッセージ込められた作品が多く見受けられました。正しい知識、医師患者関係、強い意志、いずれもAMR対策に必須のことです。

今後私達は“薬剤耐性”のことをさらに多くの方々に知って頂くために、この川柳を使って啓発を進めていきます。
とてもいい作品をどうもありがとうございました。



国立国際医療研究センター病院
AMR臨床リファレンスセンター
センター長 大曲 貴夫

薬剤耐性とは？



薬剤耐性 (AMR) とは、病原体が変化して抗菌薬・抗生物質が効かなくなる問題です。このまま対策を行わないと、2050年には1,000万人 (3秒に1人※) の死亡が想定され、現在のがんによる死亡者数を上回ることが指摘されています。

※英国薬剤耐性に関するレビュー委員会 (オニール委員会) 第一次報告 (2014年12月)

<本件に関する報道関係者からのお問合せ先>

AMR臨床リファレンスセンター広報事務局 担当：小石、佐藤、木下
TEL：03-6427-1627 FAX：03-6730-9713 E-Mail: info@kartz.co.jp